

漂着ごみは「人工ごみ」

「ポイ捨て、絶対にしない」

蔦島でビーチコーミング



海岸に落ちているものについて学ぶ隊員たち

美しい海いつまでも

古里の美しい海を守ろう。子どもたちに海の魅力を再発見してもらう「かがわ sea マスター海のええもん発見隊」が6、7の両日、三豊市仁尾町の父母ヶ浜などで行われました。日本財団が推進する「海と日本プロジェクト in かがわ」の一環。隊員に選ばれた県内の小学5、6年生の計20人は、シーカヤックやシュノーケリングの体験、海の生物観察、浜辺に打ち上げられたごみの回収などを通じて、海の環境を守ることの大切さを実感。オリジナルの「海のええもん新聞」にまとめました。新型コロナウイルス対策として、参加者はフェースシールドとマスクを着用し、ソーシャルディスタンス（社会的距離）を意識して臨みました。

三豊で児童20人活動



父母ヶ浜で海浜植物を観察する隊員たち

「思ったよりも動きが速い」「こんなにたくさんのカニがいるとは知らなかった」一。三豊市仁尾町の父母ヶ浜で6日、隊員たちは干潟の生き物を観察しました。

海のええもん新聞

海のええもん発見隊の20人は7日、三豊市沖の蔦島の海岸で、漂着ごみの種類や分量を調べるビーチコーミングを行いました。カキの養殖に使うプラスチックのパイプやペットボトル、お菓子の袋が目立ち、一見きれいに見える砂浜にも、驚くほど多様なごみがあることに衝撃を受けました。また、拾い集めた物の中にはごみとして捨ててしまうにはもったいないものも。美しい色合いの貝殻や小型のクジラ目の骨、砂や石で削られてピカピカに輝くガラス玉、木の実など、自分だけの“お宝”を集めていました。木箱をみんなで手作りしてその中に収納し、拾った場所や日時も記載。思い出の詰まった宝箱の歓声に、隊員たちは満足そうな表情を浮かべていました。